

市民のつどい2013・第1回ふれ愛講座(岡部まりさん)講演概要

新宮市では平成 25 年 11 月 19 日、新宮市職業訓練センターにおいてタレントでエッセイストの岡部まりさんをお迎えし、「つないでいきたい 日本人の心」をテーマに講演会を開催しました。テレビでおなじみの岡部さんの話やそぶりに、時には聞き入り、時には笑い、来場された約 300 人の聴衆の皆さんは、熱心に耳を傾けていました。

また、アンケートも実施し、約 60%の方からご協力をいただきました。その中で、「大変良かった」「参考になった」「日本人の心、大切にしたい」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただきますと、アンケート集計結果の PDF ファイルがご覧いただけます。



岡部さんは、地元に住むユーモアに富んだ家族のエピソードや新宮に過去 3 回来ていることを話した後、一昨年の東日本大震災以降に変わった意識などについて話しました。

東日本大震災の発生時には東京の自宅にいたという岡部さん。「東京は地震の街。怖がりで、特に地震が怖いのでいろんな防災グッズをそろえていたが、たった一つ、自分の心を備えてなかった。近所の人からメールや電話が来て、知っている人の、気にかけてくれる言葉がなんと心強いかなを実感した」と振り返り、世界中のメディアが伝えた被災地・日本の控え目で節度のある行動や我慢の精神、さまざまな意味のこもった「すみません」の言葉など、日本人が本来持つ精神性を紹介しました。



また、「ダンシャリ（断捨離：不要なものを断ち、捨て、執着から離れることを目指す整理法）」についても語り、例えば年賀状を送る人を整理するには、「送る」「送らない」「わからない」の 3 つに分け、それを何回も繰り返すことで年賀状を送る人を整理できます。私は、そのようにして自分の信頼できる友達を見つけ、自分の身に何かあった場合にその友達に連絡がいくように、友達の氏名・住所・電話番号をメモした物をいつも財布の中に入れてあります。

そして、「備えるべきものは友達。信頼できる友達を作ってください。」と話し、「人は一人で生きていけない。一緒に住んでいなくても、『誰と生きているのか』は重要です。実際の部屋には狭くて入りきれないけど、心の中の間取りは自由。たくさんの人が自由に笑顔で住めます」と、日ごろ備えておきたいことや、命の大切さを語りました。

講演する岡部 まりさん（新宮市職業訓練センター） 平成 25 年 11 月 19 日（火）